

第2回揖保川流域委員会
H14. 5. 27
資料2

揖保川と流域の現状認識に関するメモ

浅見委員からのメモ

■検討を進めるにあたって、知っておくべき又は知りたいと思われる情報の項目と内容

○揖保川の自然環境情報を整理した基礎資料。

- ・揖保川を代表する個々の生物（群集）の分布や生育状況
- ・貴重種の分布や生育状況
- ・年代による変遷

○基礎資料に基づき、自然環境の特性を分析・評価した資料

- ・上流，中流，下流，河口などといった地域区分
- ・地域区分ごとの、河川特性や生物群集の特性

■その他、情報の共有化に関して、委員会での検討が必要と思われる事項

○現地視察で「見た」内容を、委員全員の共通認識として合意形成していくための、あるいは、第三者に説明可能な内容として示すための、数値や指標による評価。

○視察時に指摘された問題点に対して、「なぜ、そういうことが起きたのか」という、しくみや背景（目標を管理したり、計画を推進するための、いわばシステム上の問題点）を解きほぐしていくこと

以上

庄 委員からのメモ

1. 上流域の特性

- (1) 中、下流域に比べ水の透明度が高い
- (2) 自然の残された環境(岸辺、水生生物、魚、植物)が多く見られる、しかし災害の起きる危険性を含んでいる。(無堤地帯)

2 管轄内と管轄外

- (1) 源流域と山の現状の認識
管轄外ではあるが水量、水質にかかわりがある
- (2) 地域住民の河川に対する意識

進藤委員からのメモ

(1) 検討を進めるにあたって、知っておくべき又は知りたいと思われる情報の項目と内容

- 1) 平成6年より始まった河川環境整備「清流ルネッサンス21」の概要
- 2) 平成9年より始まった揖保川町正條地区の「水辺の学校プロジェクト」の概要
- 3) 平成13年2月に西播磨で多数の県民の参画を得て策定された「西播磨地域ビジョン」や、平成14年に地域住民や団体などの参画のもと策定された西播磨地域ビジョン推進プログラムなどとの整合性や連携の可能性について
- 4) 平成12年の王子橋付近での「(通称)とんぼ池」の設計段階からの地域住民参加型ビオトープづくりの概要
- 5) 今後、例えば揖保川水系の河川整備に地域住民が計画づくりから参加する事業の有無
- 6) 森林などと河川(揖保川水系)との関係・つながりについて
- 7) 地域地場産業などと河川(揖保川水系)の関係・つながりについて
- 8) 国土交通省姫路工事事務所の業務概要
- 9) なぜ揖保川が一級河川なのか

(2) 委員がお持ちになっている情報で、他の委員に知ってもらいたい情報

- 1) 「揖保川水系県民運動推進会議」の存在
- 2) (社)龍野青年会議所地域支援委員会が実施中の事業「空き缶地域回収隊」
- 3) 上記(1) 3)と同様
- 4) 参考として、「千種川圏域清流づくり委員会」の存在

(3) その他、情報の共有化に関して、委員会での検討が必要と思われる事項

- 1) 上記(1) 3)と同様

田中丸委員からのメモ

(1) 検討を進めるにあたって、知っておくべき又は知りたいと思われる情報の項目と内容

1) 揖保川における農業用水と農業・農村の現状

揖保川における水利用を考えたとき、農業用水を無視することはできない。また、揖保川には、複数の頭首工、井堰が存在することから、魚道のあり方など、農業と漁業といった業種間の関係も考えていく必要がある。そこで、農業・農村からみた揖保川の現状をある程度把握しておく必要があると思われる。たとえば、次のような項目が考えられる。

流域内の市町村における農業生産、農家戸数、農地面積、水田面積およびこれらの推移、農業用水の取水状況、農業用排水施設の整備状況、集落排水施設の整備状況

注1) これらについては、たとえば兵庫県龍野土地改良事務所等から同事務所管内の農業農村整備に関する資料（パンフレット、管内図等）を収集すれば概略は把握できると思われる。

注2) なお、「揖保川と流域への想い」の段階では、たとえば地元の土地改良区等を通じて農業・農村サイドの意見も集めていただきたい。

2) アンケート調査事例の収集

揖保川の将来を考える際には、揖保川流域の地域住民の意向を把握する必要がある。行政サイドで河川整備や河川環境等に関連するアンケート調査等がすでに行われているのであれば、その調査結果を委員会にも示していただきたい。

3) 地域住民の活動団体の把握

最近各地で地域住民によるグラウンドワーク活動等が盛んであり、実際、揖保川においても様々な活動が行われている。そこで、揖保川に関連の深い活動団体にどのようなものがあるかを把握しておくことが望ましい。今後そのような活動団体からも意見を集めることが考えられる。さらに、揖保川を題材にした地域の学校における取り組み等があれば、その事例も把握しておいてはどうか。「総合的学習」が学校のカリキュラムに組み込まれたことから、今後は学校における環境学習等が盛んになることが予想される。

栃本委員からのメモ

●委員がお持ちになっている情報で、他の委員に知ってもらいたい情報

〔生き物の参考文献〕

- ①龍野の自然（1833）ヒガシマルより刊行
- ②ひめじのさかなとまみずの生物Ⅰ（1986）姫路市立水族館刊行
- ③生きている揖保川（2001）野生生物を調査研究する会刊行

丸山委員からのメモ

●検討を進めるにあたって、知っておくべき又は知りたいと思われる情報の項目と内容

- 現時点での国土交通省等において計画している又はしようとしている工事・行事などがあれば。概要・年度等を含めて（公表できるものでよい）。
- 沿川自治体、住民よりの要望等があれば。内容等も含めて（公表できるものでよい）。

波田委員からのメモ

●検討を進めるにあたって、知っておくべき又は知りたいと思われる情報の項目と内容

- 昭和30年代前半頃までの揖保川流域の自然環境と人々の暮らし。特に水利用の状況。

●委員がお持ちになっている情報で、他の委員に知ってもらいたい情報

- 必要なら、揖保川流域の基盤地質

揖保川に關して 目 気 が かり な こ と 二 つ

赤松 龍野醤油資料館

正田 富夫

(1) 龍野橋の架け替えについて。

龍野橋は架けられたから70年に近く、架け替えの必要時期が来ていると聞いておられます。今度架けるとなると、両端の路面を現在より2m位上げねばならず、そうすると地区の住民が大変に思っている歴史的な町並みが、これはしないか。

これが一つであります。

(2) 川中の拡張について

旧建設者時代から、揖保川の川中が祇園橋付近から龍野橋付近まで狭いので、拡張の必要があり、右岸に於て川中の拡張をお考之とか洩水聞いておられます。

この部分には、近世大庄屋であった堀邸があり、これは国の重要文化財に祭り得る貴重な建築物であり、邸西の丈楠、鬱蒼とした屋敷杜と共に、市民が、郷里の原風景として鍾愛しておられます。

これが保存と洪水対策の両立の途は無いものだろうか。これが一つの気かりであります。